

農産品物流の改善・効率化に向けて

(農産品物流対策関係省庁連絡会議 中間とりまとめ)

平成29年3月

農林水産省・経済産業省・国土交通省

(目 次)

1	農産品物流の現状	1
2	トラック輸送の現状	2
3	農産品物流の改善に向けた取組の方向性	3
4	農産品物流の課題と対応方策（イメージ）	4
5	対応方策への取組方向	5
	① パレット、フレコン等	5
	② I C Tによる効率集荷システムの導入	1 1
	③ 共同輸送（ストックポイント等）	1 2
	④ 共同輸送（トラックの共同利用及び中継輸送）	1 4
	⑤ 鉄道・船舶へのモーダルシフト	1 7
	⑥ トラック予約受付システムの導入	1 9
	⑦ 共同輸送（帰り便の活用）	2 2
	⑧ 商慣行の見直し	2 4
6	評価指標の検討	2 6
7	今後の推進方向	2 7

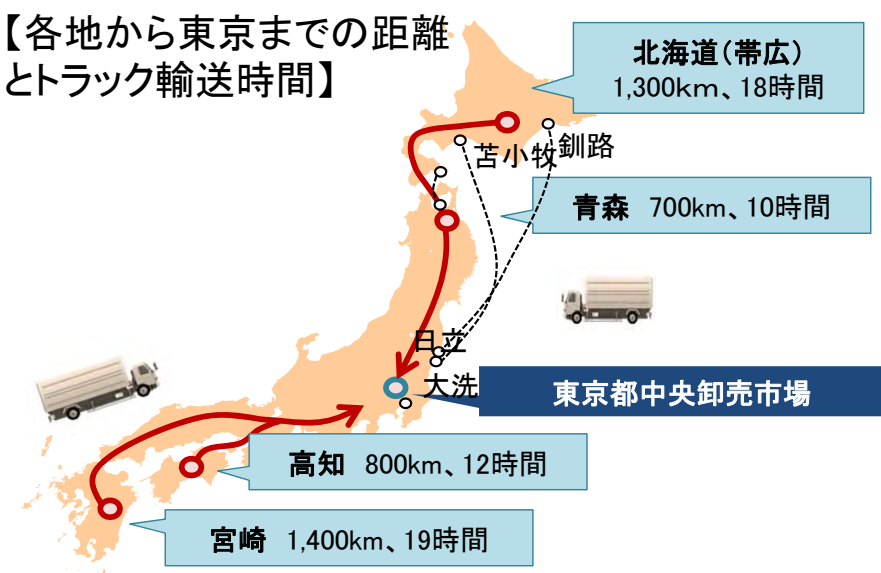
1 農産品物流の現状

- 農業の競争力強化、農業者の所得向上には物流の安定的な確保やコストの削減が必要。このため「**農業競争力強化プログラム**」に物流の効率化に取り組むことが位置付けられている。
- 現状の**農産品物流は逼迫**しており、農業者からは思うように運べない、小ロットでは物流費が高くなるといった声が上がっている。
- 農産品流通は、生産構造や品目の特性、消費者ニーズ等に対応するため、現在の全国から迅速に集分荷する**多段階の流通形態**に発展したが、それが**トラック輸送に大きな負荷**を与える要因ともなっている。



【農業者等の声】

- ◆ 現在も輸送は『ギリギリ』の状態、台風や事故など何かあれば『運べない』状況。(JA関係者)
- ◆ 以前は複数箇所での荷下ろしができたが今年からは2箇所までと制限あり。(JA関係者)
- ◆ 地方では物流費が高い。小ロットでは送料の方が商品より高くなる場合も。(農業者)



生産構造	品目特性	消費者ニーズ
◆ 生産量が天候等に左右される	◆ 腐敗や傷つき易い	◆ 鮮度、味を重視
◆ 品目が多く、ロットが小さい場合も	◆ 多種多様な品種	◆ 多頻度少量で購入
◆ 消費地の遠隔地に大産地が存在	◆ 冷蔵等の温度管理が必要	◆ 多様化・細分化し豊富な品揃が必要
	◆ 流通過程で荷姿が変わる場合も	

(点線：北海道からのトラック輸送形態(トラック→フェリー→トラック))
出典：農林水産省生産局「青果物流通をめぐる現状と取組事例」 1

2 トラック輸送の現状

○ 農産品物流は、トラックによる輸送が大宗を占めているが、トラック業界は、長時間労働や低賃金等過酷な労働環境から深刻な人手不足の他、長時間労働の短縮等コンプライアンス遵守の要請が高まっている。

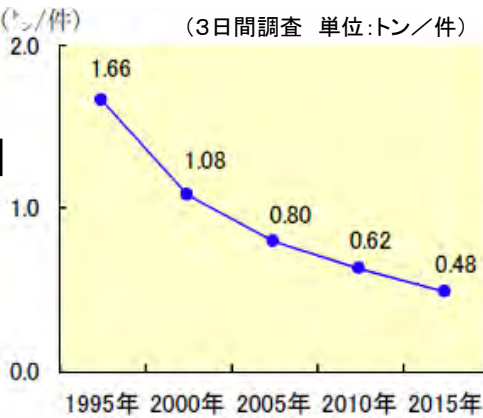
○ 特に農産品の輸送は、

- ① 出荷量が直前まで決まらず、出荷待ち、荷下ろし待ち等の手待ち時間の長さや、長距離輸送による長時間の拘束
- ② 手積み手下ろし等の手荷役作業が多く、重労働
- ③ 突然の行き先変更や厳しい品質管理、厳格な到着時間など運行管理が難しい
- ④ 帰り荷がなかったり、小ロット多頻度輸送が求められる

等により、敬遠される場合がある。

【農水産品一件あたりの 貨物量の推移】

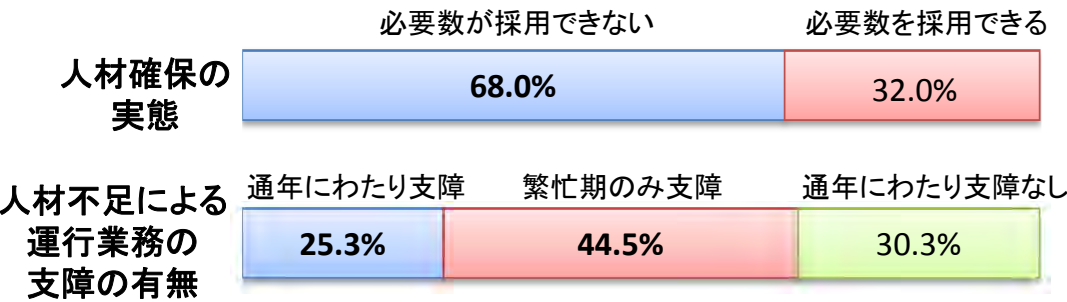
出典:国土交通省「全国貨物純流動調査(物流センサス)」より
国土交通省物流政策課作成
※ 2015年は速報値。



【トラック業界の労働環境】

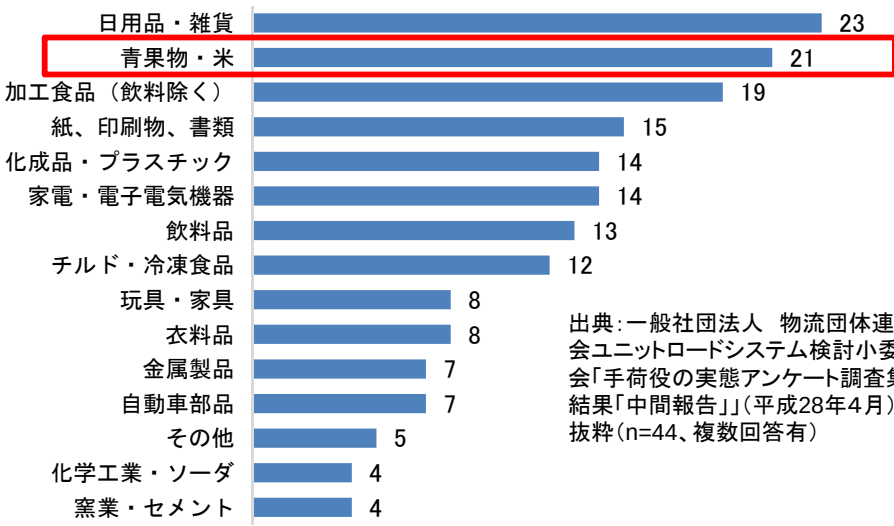
	道路貨物運送業	全産業
所得額	388 万円	489 万円
労働時間	2580 時間	2124 時間

出典:厚生労働省「平成27年賃金構造基本統計調査」



出典:(公社)全日本トラック協会実施の景況感調査(93回調査)における追加質問の集計により作成

【手荷役作業の多い品目】



出典:一般社団法人 物流団体連合会ユニットロードシステム検討小委員会「手荷役の実態アンケート調査集計結果「中間報告」」(平成28年4月)より抜粋(n=44、複数回答有)

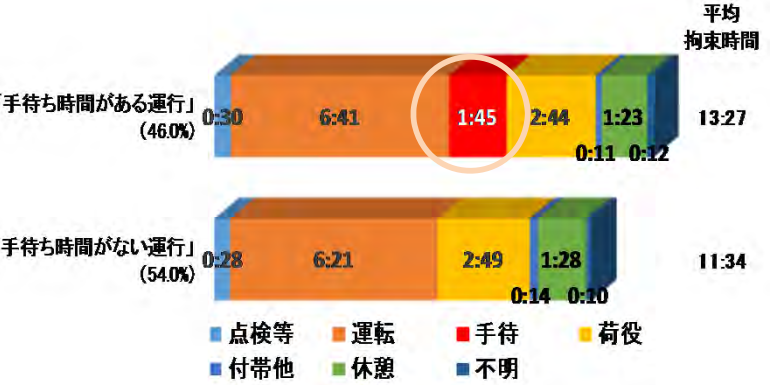
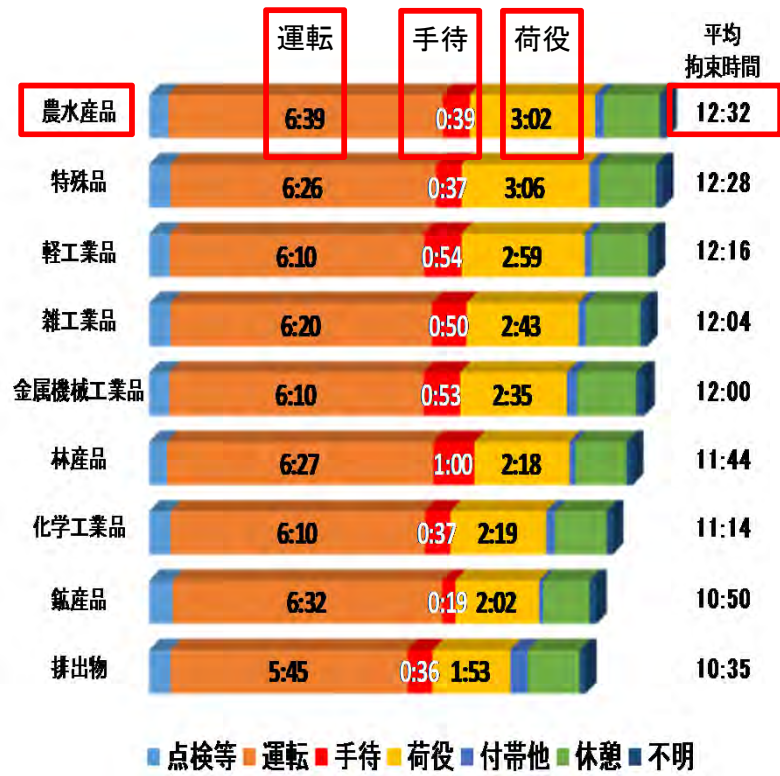
3 農産品物流の改善に向けた取組の方向性

- トラック業界は高齢化が進んでいることもあり、今後も人手不足が深刻化する可能性があるなか、負担の大きい農産品を運ぶトラックドライバーの確保がさらに困難となり、**農産品の物流は、今後立ち行かなくなる可能性**がある。
- 今後とも、農産品の生産、出荷、流通、販売に携わる各関係者が、各々の事業の継続にとって不可欠な物流を安定的に確保するためには、**各関係者が物流関係者と緊密に連携し、トラック輸送への負荷の軽減、物流の効率化を図ることで、持続可能な物流を実現**していくことが必要であり、関係省庁は連携して各業界の取組を後押ししていくことが重要である。
- その際、**各関係者にとってWin-Winの結果**が得られるよう、取組の**負担と受益を分かち合う**ことが取組の成功、継続にとって重要である。

【農産品物流の改善により、各関係者が受けるメリット】

生産・出荷関係者	卸売関係者	小売関係者	物流関係者
○ 安定的な出荷や、通販等新たな販売に必要な物流の安定的な確保	○ 安定的な配送の確保		○ 長時間労働の軽減
	○ 安定的な集荷の確保	○ 安定的な商品の確保	○ 過重労働の軽減
			○ 人手不足の軽減
○ 物流コストの最適化			
○ 効率的な運用による収益性の改善、生産性の向上			

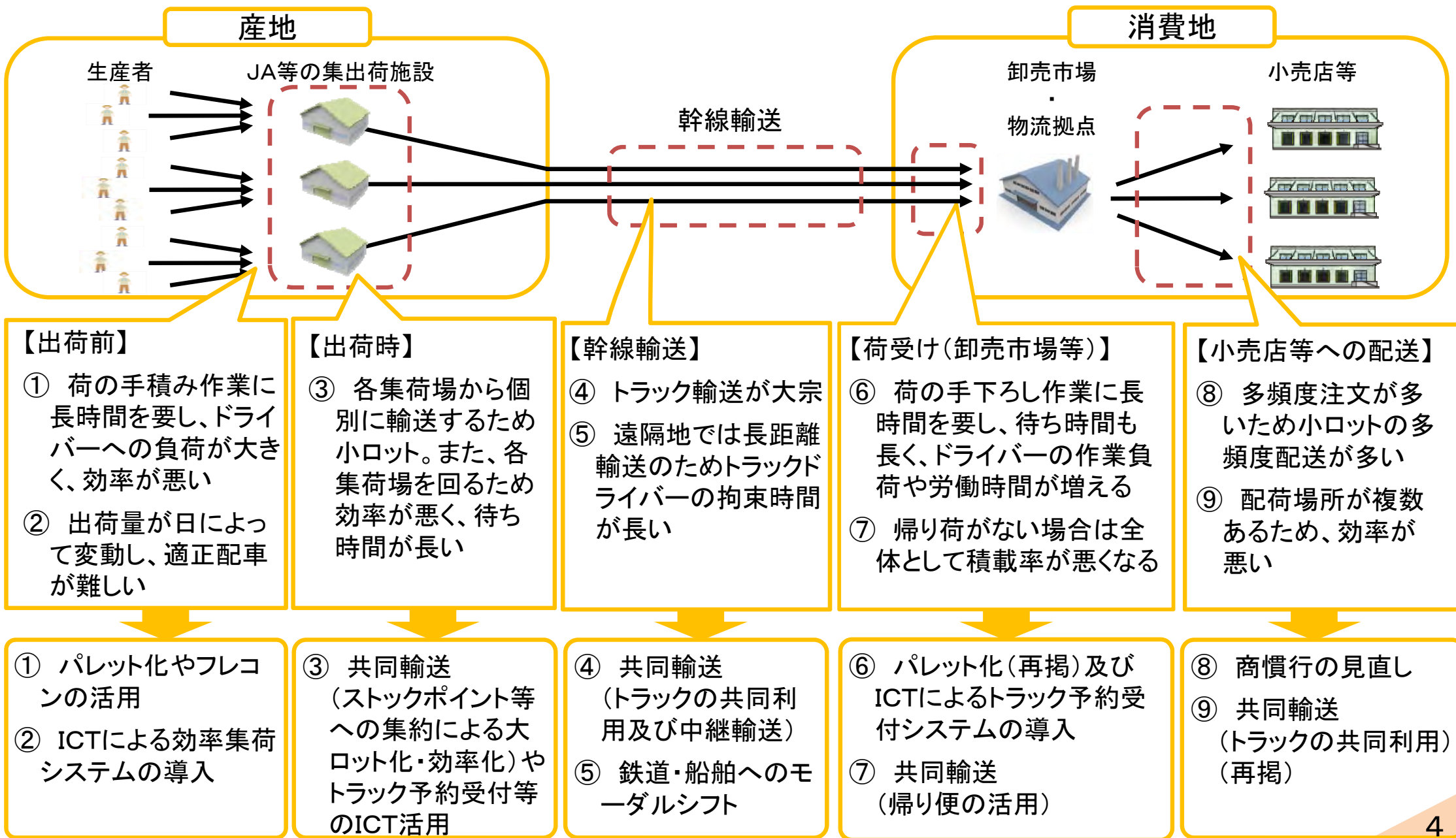
【輸送品類別 拘束時間の内訳】



出典：国土交通省「トラック輸送状況の実態調査(H27)」

4 農産品物流の課題と対応方策(イメージ)

○農産品物流の主な課題に対し、関係者が連携して解決を図っていく必要がある。



5 対応方策への取組方向 ①パレット、フレコン等(Ⅰ)

1. 課題

◆荷の手積み・手下ろし作業に長時間を要し、ドライバーへの負荷が大きく、効率が悪い

2. 効果

◆ダンボールや紙袋のばら積みから、**パレット積み**や**フレコン**輸送に切り替えることで、手積み手下ろしに数時間を要する作業が1時間以内に短縮されるなど、ドライバーの過重労働や長時間労働の削減、荷役スペースの有効活用等の効率化に効果を発揮。

特に、発地から着地まで荷物を取り崩すことなく一貫して輸送・保管する**一貫パレチゼーション**の効果は大きい。

◆また、ダンボール箱から再利用可能な通い容器(**折り畳みコンテナ**や**鉄コンテナ**(加工・業務用))に切り替えることで、資材費の削減等に効果がある。

【パレット】



【フレコン】



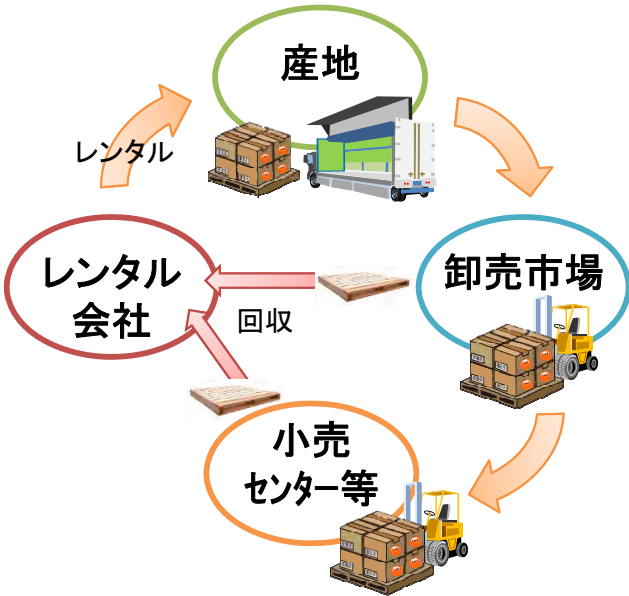
【折り畳みコンテナ】



【鉄コンテナ】



【レンタルパレットによる一貫パレチゼーションのイメージ】



◆パレット等の活用は物流の効率化に効果が大きいが、農産品では以下の課題等により取組が進みにくい状況。

課題	内容
関係者の意識	出荷、流通、物流の各関係者の連携・協力が必要であるが、短期的には 受益者と負担者が異なる ため、導入への合意形成やルール策定・遵守が難しい。
紛失	農産品は、輸送中の配送先の変更、着荷先の卸売市場等から他市場等への転送・転売、他業者による無断利用等により、パレット等の所在が不明になる 紛失が多く発生 するため、コスト高となり、採算が合わない。
規格の非統一	各事業者が異なるサイズのパレット等を使うため、分別保管・管理に手間や場所を要したり、流通の各段階で何度も積み替える手間が生じるなど、非効率。また、ダンボールのサイズがパレットのサイズに適合していない場合も多い。
導入経費	パレット等の調達費用や関連設備(パレタイザー、クランプフォークリフト、保管設備)等が必要となるため、小規模な産地や事業者は導入が困難。

①パレット、フレコン等(Ⅱ) 関係事業者の行動規範

- ◆各事業者が、パレットの導入をより適切に進めるため、下記の行動規範に沿ってそれぞれの実情に応じた対応を行うよう、社内や取引関係事業者に検討や協力を働きかけることが重要。
- ◆関係省庁は、所管する業界団体等を通じて、広く関係事業者に行動規範の周知を行うことにより、これに沿った取組を促進するとともに、取組の実施状況のフォローアップを行う。

【産地関係者】

- 荷積み時に手作業が発生しないよう、集出荷場・選果場内から一貫パレチゼーション化に取り組む。
- 標準的なパレットの規格に合ったダンボール等の使用を促進する。
- 契約販売、直接販売など輸送先が明確でパレットの回収が比較的容易である場合には積極的に一貫パレチゼーション化に取り組む。
- パレットの回収が円滑に行われるよう、パレットの伝票を出荷時に確実に発行する。

【卸売市場関係者】

- 卸売市場関係者は、各市場の実情を踏まえ、決められたパレット管理の主体や回収・保管の方法・場所、経費の負担等に沿って、市場内においてパレットを流用・紛失したり、関連事業者等に流用・紛失されることのないよう、適切に管理する。
- 各市場のパレットの管理方法等により異なるが、
 - 卸売業者は、パレットの伝票管理を適切に行い、卸売業者がパレットの着地になっている場合には、転送・紛失せず、回収されるまで保管するか、又は出荷元等への返送を行う。市場から転送するパレットについては、仲卸業者、運送業者、パレット取扱業者等と連携して、転送先などその所在に関する情報を把握し、共有する。また、関連事業者や仲卸業者に対して行動規範に沿った対応が行われるよう働きかける。
 - 仲卸業者は、卸売業者、運送業者、パレット取扱業者等と連携し、受け取ったパレットに対し、転送・紛失せず、回収されるまで保管するか、又は出荷元等への返送を行う。市場からパレットを転送する場合には、伝票を発行するなど、転送先の情報を把握可能な状態にする。

【パレット取扱業者】

- 産地に対して、積極的に一貫パレチゼーション化を働きかける。
- 運送業者、卸売業者、仲卸業者等と連携して、農産物の輸送先などパレットの所在に関する情報を把握し、空パレットを効率よく回収する。

【運送業者】

- 産地関係者、卸売業者・仲卸業者、パレット取扱業者等と連携して、農産物の転送先など荷の情報と併せ、パレットの所在に関する情報を関係者間で共有する。

①パレット、フレコン等(Ⅲ)

3. 各業界の取組方向

	生産・出荷関係者	卸売関係者	小売関係者	物流関係者(パレット業者含む)
意識	○ 行動規範によりパレット等の導入の必要性や管理方法等への理解を深め、取組を検討(前項参照)			
	○ 積載率の低下や導入経費等の他、効率化の効果等も勘案し、パレット等の導入に伴う受益と負担のバランスを関係者と調整	○ パレット等の管理経費等の他、効率化の効果等も勘案し、パレット等の導入に伴う受益と負担のバランスを関係者と調整	○	○ パレット輸送等への切替えによる効率化の効果も勘案し、パレット等の導入に伴う受益と負担のバランスを関係者と調整
紛失	○ 関係者と共同でパレット等の管理ルールを策定し、適切に管理(9項参照)			
	○ パレット伝票の発行 ○ 配送先の変更時は、関係者に変更先の情報を連絡 ○ 出荷したパレット等の紛失時の賠償等を明確化	○ パレット伝票に基づき適切に管理・保管し、返却 ○ 転送する場合は、パレット伝票を再発行するとともに、関係者に転送先の情報を連絡 ○ 管理下にあるパレット等の紛失時の賠償等を明確化	○	○ パレット伝票に基づき、荷の情報と併せ、パレットの移動や所在情報を関係者と共有し、適切に取り扱う ○ 管理下にあるパレット等の紛失時の賠償等を明確化
規格非統一	○ パレット等の導入、更新の際には関係者に確認し、標準規格を選択 ○ ダンボールや通い容器等のサイズをパレットの標準規格に適合するものへ変更	○ 関係者に標準規格のパレット等の使用を呼びかけ ○ 標準規格のパレット等に適合した保管場所等の整備	○	○ パレット等の製造、レンタル業者は、連携してサイズ、素材等を共通化し、標準規格とする ○ 物流関係者は標準規格の使用を関係者に働きかけ

①パレット、フレコン等(Ⅳ)

4. 取組事例

ホクレン農業協同組合連合会によるパレット輸送の取組

【取組概要】

- 標準的な木製11型パレットをレンタルし、トラック輸送の一部をパレット輸送に切替え
- 11型パレットに合わせるため、一部品目のダンボールサイズを変更
- 商品説明会を通じ、取引先(卸売市場等)にパレット回収の必要性を説明。
- 特に回収率が悪い取引先には個別訪問を行い、改善策を協議



【効果】

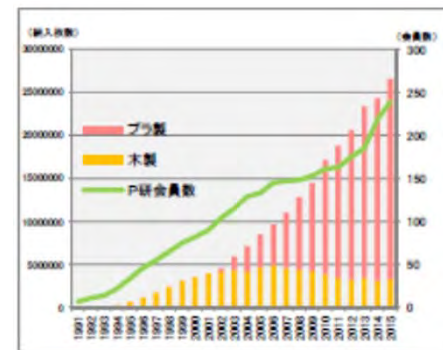
- 積み下ろし時間が1/2～1/3に短縮
- 作業時間短縮により配達先が2市場から3市場へ増加
- パレット回収率が80%(2014年度)から93%(2015年度)へ改善

共同利用・共同回収による循環型一貫パレチゼーションの取組

【取組概要】

- JPR11型レンタルパレット共同利用・回収推進会(P研)は、加工食品メーカー、物流業者、卸売業者、小売業者のサプライチェーン全体で、以下をポイントに循環型一貫パレチゼーションの仕組みを構築

- ① (標準化) JPR11型パレットを利用し、P研運用ルールを遵守
- ② (共同化) 標準化により互換性が生まれ、共同で回収が可能
- ③ (ネットワーク) 利用者が増えるほどメリットが大きい



【効果】

- 約260社が参加し、業界の確固たる物流インフラとして成長
- パレット回収率は99%前後で推移(当初は95%程度)

5. 支援施策等(制度、予算)

出典：日本パレットレンタル株式会社「青果物の一貫パレチゼーション化について」より作成

	名称	内容
関連事業	長時間労働の改善等に向けたパイロット事業(国土交通省)(H29年度限り)	各都道府県の事情を踏まえ、各地方協議会が選定した集団が、コンサルタントのアドバイスのもと、現状分析、課題の洗い出し、解決手段の検討、実証実験、検証等の実施を支援
今後の検討課題	産地から消費地までの物流改善	産地から消費地までの関係者の連携により、各産地に適した物流の改善策の検討、パレット、ICTシステム等の物流合理化策の導入を後押しするための方策を検討
	卸売市場における商物流効率化	卸売市場内における新たな流通システムを構築し、労働環境の改善や効率化等を図るため、先端的な荷役ロボットやICTの導入等を促進するための方策を検討
	パレットの適正管理	卸売市場関係者をはじめ、関係者に対し、パレットを適正に管理することなどを留意するための方策を検討

①パレット、フレコン等（参考：P研ルール）

※P研：JPR11型レンタルパレット
共同利用・回収推進会

◆P研は、パレットの回収を課題としていた食品メーカー7社が集まり、一貫パレチゼーションによる物流効率化の実現等を目標に、1990年にパレットの共同利用を始めた民間事業者による研究会で、現在、会員企業260社以上（食品メーカー）、共同回収店1,600拠点以上（卸、小売等）、パレット納入枚数2,600万枚以上、パレット回収率99%前後の取組。

基本原則

- ① JPR11型レンタルパレット（木製またはプラスチック製）を使用する
- ② 着荷主（共同回収店）より空パレットをJPRが共同回収する

主なルール

出荷者（会員）

- ① JPRからパレットを借り入れる（所定のFAXオーダーフォーム）
- ② パレット伝票を起票する（発送会社控、運送会社控、受取会社控、返送用の4枚綴り）
- ③ 原則、車両1台に1枚のパレット伝票を添付し、出荷する
- ④ 出荷情報をJPRに連絡する（オンライン送信）

共同回収店

- ① 納入されたらパレット伝票を受け取り、記載内容と枚数等を確認し、押印、保管する
- ② 他の共同回収店へパレット出荷・転送する場合には、新たなパレット伝票を起票する
- ③ 空パレットは、木製とプラスチック製に仕分け、回収車に引き渡すまで盗難に遭わないよう倉庫内で保管する
- ④ 納入事業者によるパレットの等枚交換や持ち出しを禁止する
- ⑤ 納入事業者は、JPRに登録の住所以外の拠点へ商品の納入を要請する場合は、必ず当該拠点の情報をJPRへ報告する
- ⑥ JPR11型レンタルパレットを紛失した場合は、当該店はオフチャージ料を負担する

JPR

- ① 定期的にパレット回収会社が回収する
- ② 出荷元からの発情報と、返送されたパレット伝票の着情報をデータ化し、発着照合を行う

①パレット、フレコン等（参考：流入パレットの管理・返却について）

◆パレットは、青果物や穀物の輸送だけでなく、加工食品等の農産品以外の輸送においても幅広く活用されているが、各流通段階の様々な関係者を經由する過程で、当該パレットの本来の使用・回収のルートから外れ、産地や卸売市場などの農産品の流通ルートに流入する場合がある。

◆流入したパレットについては、流用・紛失しないよう、自らの農産品流通に係るパレットと分別して適切に管理し、所有者や回収業者に連絡して、速やかに回収されるよう措置することが重要である。

1. 流入するパレットの例



◆JPR木製11型レンタルパレット
【回収連絡先】
JPR日本パレットレンタル株式会社
電話：0120-8010-11
メール：mitsuketa@jpr.co.jp



◆ビールパレット
【回収連絡先】
一般社団法人Pパレ共同使用会
電話：03-3561-8340



このほか、輸入果実のパレットなど様々なパレットが存在

2. 各業界の取組方向

生産・出荷関係者	卸売関係者	小売関係者	物流関係者
○ 流入したパレットは流用・紛失しないよう分別して適切に管理し、回収業者等に速やかに連絡	○ 自社取引に係るパレットを適切に管理、返却し、他への流出を防止	○ 契約外のパレットの引取、流用等を行わない	

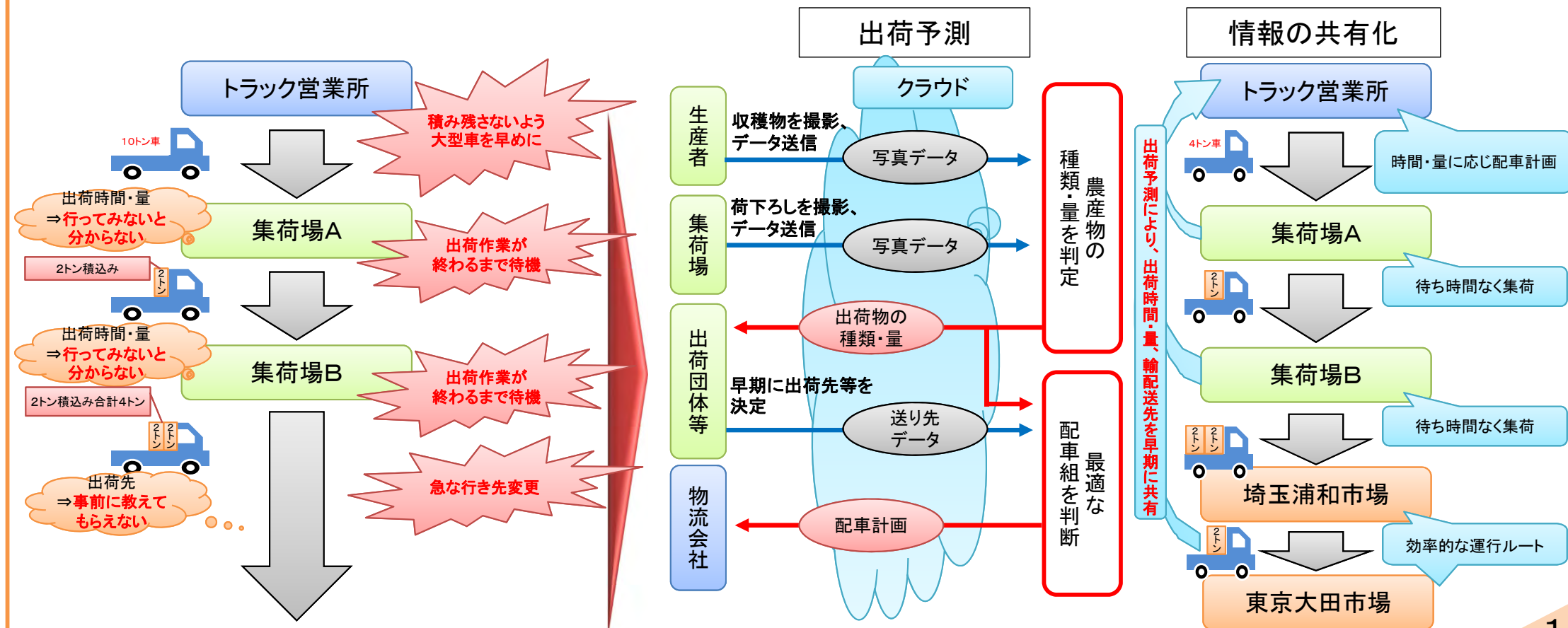
②ICTによる効率集荷システムの導入

課題

◆出荷量が日によって変動し、適正配車が難しい

今後の実用化が期待される取組

◆産地では、ICT等により品目毎の出荷量を迅速に把握し、送り先を早期に決定、物流関係者に共有。
物流関係者は、共有された情報から適時・適切な配車、最適な運行ルート等の計画を策定。
これにより、集荷場所での待ち時間の削減やトラック確保の容易化、積載効率の向上に効果が期待される。



③共同輸送(ストックポイント等)(Ⅰ)

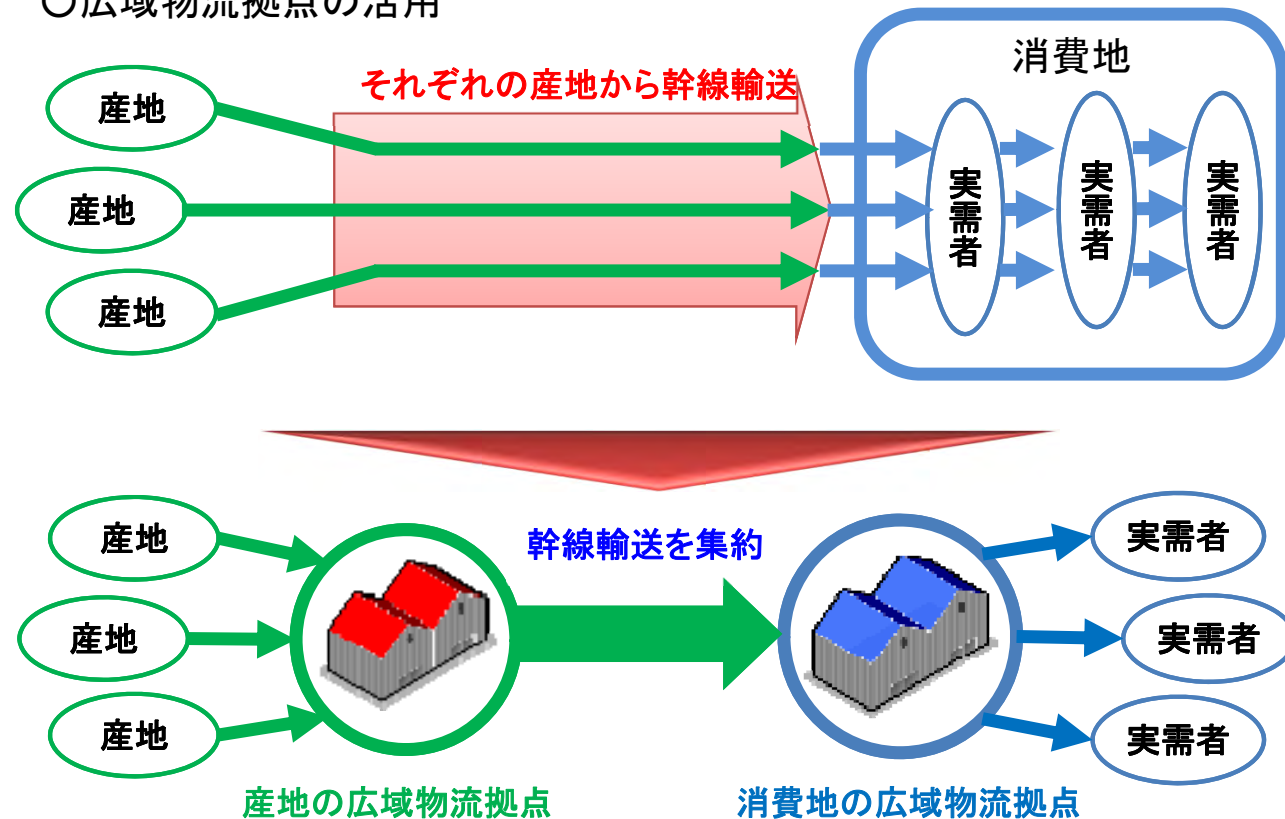
1. 課題

◆各集荷場から個別に輸送するため小ロット。また、各集荷場を回るため効率が悪く、待ち時間が長い

2. 効果

◆小ロットの農産物を広域物流拠点に集積し、大ロット化することで、積載率の向上や輸送網の集約等による物流の効率化に効果。

○広域物流拠点の活用



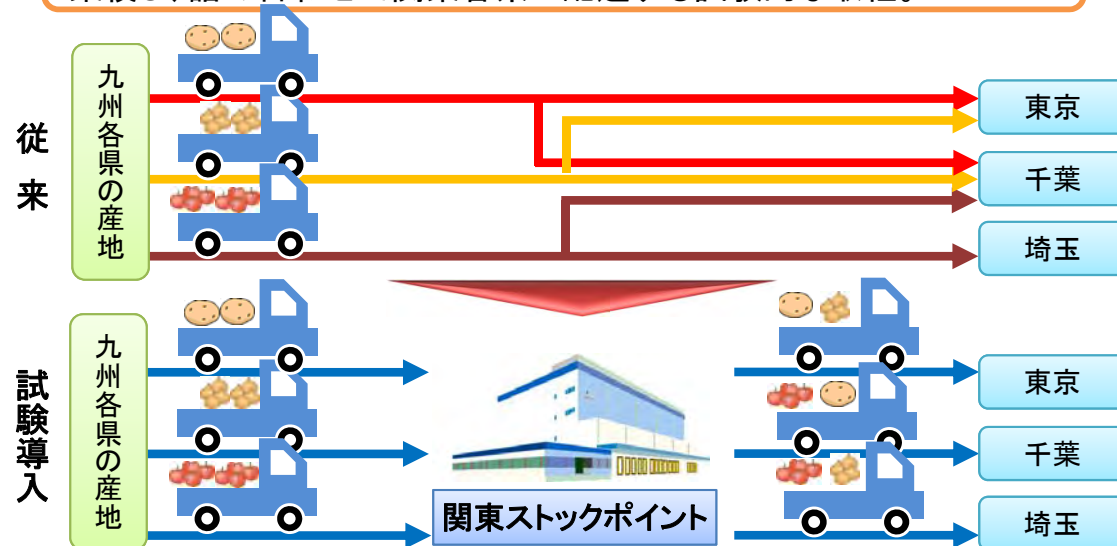
3. 各業界の取組方向

生産・出荷関係者	卸売関係者	小売関係者	物流関係者
○ 連携先となる産地・生産者、物流関係者、卸・小売等の流通関係者の発掘・調整			
○ 最適な運行ルートの設定や拠点となる場所の検討、広域物流拠点の有用性等について調査・検討			
○ 共同化できるインフラの活用方法や新規導入の検討			○ 生産者・出荷業者との契約関係の整理・調整
○ 物流関係者との契約関係の整理・調整			

③共同輸送(ストックポイント等)(II)

4. 取組事例

関東ストックポイントにおいて九州各県から輸送した各種の農産物を集積し、詰め合わせて関東各県に配送する試験的な取組。



海上リーファーコンテナを産地、卸売市場等でストックポイントとして活用する取組。

- 海上リーファーコンテナを活用することで、積み地・受け地で、比較的安価にストックポイントの設置が可能。
- コンテナ数の変更や設置場所の移動等の自由度が高く、コンテナごとの温度管理等も可能であるため、機動的かつ用途に応じた運用が可能。

○ 産地における活用事例



○ 卸売市場における活用事例



出典：(一社)日本物流団体連合会「農産品物流の改善に向けて」より作成

5. 支援施策等(制度、予算)

	名称	内容
法制度	物流総合効率化法	総合効率化計画の認定を受けた食品生産業者等が実施する事業に対し食品流通構造改善促進機構による債務保証等
関連事業	長時間労働の改善等に向けたパイロット事業(国土交通省)(H29年度限り)	各都道府県の事情を踏まえ、各地方協議会が選定した集団が、コンサルタントのアドバイスのもと、現状分析、課題の洗い出し、解決手段の検討、実証実験、検証等の実施を支援
	モーダルシフト等推進事業(国土交通省)	①共同輸配送等の物流効率化を図る取組について、改正物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の策定のための調査事業に要する経費を補助、②認定を受けた総合効率化計画に基づき実施する共同輸配送について、初年度の運行経費を補助
	物流分野におけるCO2削減対策促進事業(国土交通省・環境省)	CO2排出削減に資する複数荷主の貨物に係る共同輸配送の実現のために集約センターや輸送等において必要となる設備・機器等(車両・輸送機材・荷役機器・情報機器等)を新たに導入する経費を補助
今後の検討課題	産地から消費地までの物流改善	産地から消費地までの関係者の連携により、各産地に適した物流の改善策の検討、パレット、ICTシステム等の物流合理化策の導入を後押しするための方策を検討(再掲)